神戸市西区

出合遺跡

で あ い い せ き

現地説明会資料

出合遺跡の発見は、30年前の昭和52年（1977）、現在の神戸市西区中野で計画された宅地造成に先立つ発掘調査にさかのぼります。この時の調査では古墳時代の竪穴住居（たてあなじゅうきょ）や帆立貝式古墳（ほたてがいしきこふん）の亀塚古墳をはじめとする５基の古墳などが見つかりました。これから数えて今回の調査は、第37回目の発掘調査になります。

今回の発掘調査は圃場整備（ほじょうせいび）に伴うもので、平成17年度より行っています。最近の調査は台地下の大池周辺で行われ、弥生時代前期・後期、古墳時代、平安時代、鎌倉時代の各時代の遺構や遺物が見つかっています。

今回は、新発見である「堂ノ上古墳群」（どうのうえこふんぐん）の７基の古墳を現地で公開します。地域の歴史を知る一助となることを願っています。

発見された７基の古墳はすべて円墳です。墳丘はすべて後世の耕作地拡充のために削られ、わずかに古墳のまわりを巡る溝（周溝）が見つかっただけで、埋葬施設は残っていませんでした。

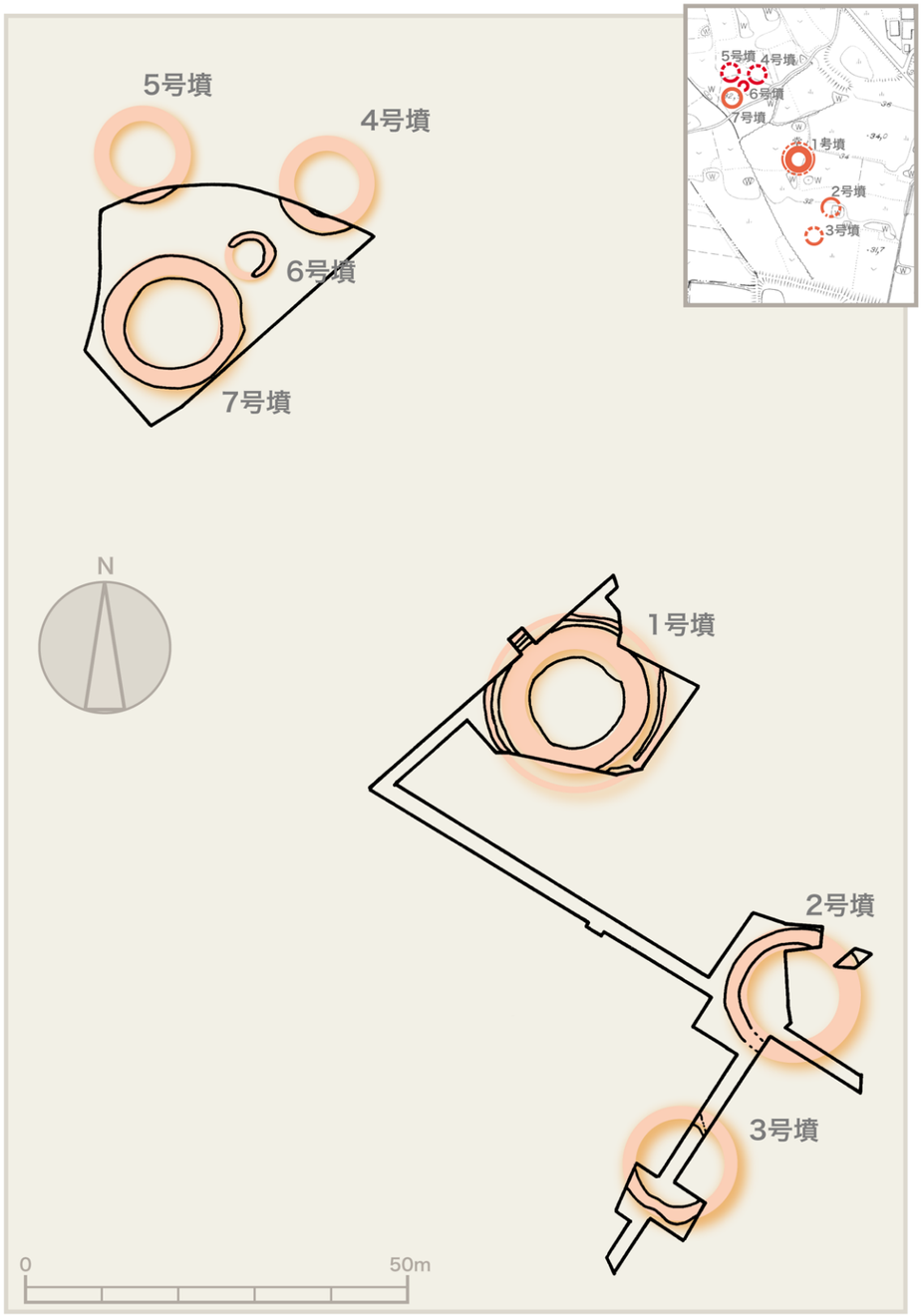
空から見た堂ノ上1号墳

調査地点と周辺の主な古墳位置図

１号墳は直径12mで、周溝の幅は3.3mです。周溝の外側には1.5mの間隔を空けてさらにもう一重、細く浅い周溝があり、古墳の周りを二重に溝が巡るようです。調査は周溝の一部を掘削するに留めています。周溝内からは、６世紀中ごろの須恵器の坏（つき）や甕（かめ）が出土しています。

２号墳は、ため池で古墳の東半分ほどが破壊されています。直径13mで、周溝の幅は２mです。一部を掘削した周溝内からは、６世紀前半の須恵器の坏や器台、壷（つぼ）、甕などが出土しています。

３号墳は大きく削られているため、溝の残りが悪く、わずかにその痕跡を留めていました。復元すると古墳の直径10mで、周溝の幅は２mです。周溝内からは土師器片がわずか出土しているのみです。



４号墳・５号墳は周溝の一部が調査区内で確認されたのみで、その全容をうかがうことはできません。図上で復元すれば、４号墳は直径7.5m、周溝の幅は2.5mになります。周溝は未調査です。５号墳はわずかに周溝の一部が認められるのみで古墳の直径は不明ですが、周溝外側の復元直径は12mの規模になります。周溝は未調査ですが、埴輪片（はにわへん）が周溝上面で発見されています。

６号墳は４・６・７号墳に囲まれるような場所で見つかっています。周溝の一部が切れていますが、本来は巡っていたと考えられます。直径は4.5mと小さく、周溝の幅は0.6mです。

７号墳は直径13mで、周溝の幅は2.5mです。周溝内からは埴輪（はにわ）や須恵器の坏（つき）や甕（かめ）が多く出土しています。埴輪には円筒埴輪（えんとうはにわ）・朝顔形埴輪（あさがおがたはにわ）があります。元々は古墳の墳丘に巡っていたものが周溝内に倒れこんだものです。埴輪以外の遺物は、古墳の東側と西側のみに集中して出土しています。これらの遺物は６世紀前半のものと考えられます。

今回の調査でみつかった７基の古墳以外にも、周辺にはかなりの密度で古墳が造られていたと考えられます。これらの古墳群を営んだ人たちのムラはまだわかっていませんが、古墳群が北東方向にある丘陵からゆるやかに張り出した丘陵裾部（きゅうりょうすそぶ）に造られ、古墳群から西南方向に視界がひろがることを考えると、当時のムラの場所がおぼろげながら推測されます。

今回の発掘調査に際しては、兵庫県神戸県民局神戸土地改良事務所、上津橋土地改良区のご協力を得ています。

2007.12.16
神戸市教育委員会文化財課
(財)神戸市体育協会

出合遺跡で発見された古墳の位置